

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

3/Color
Black

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

A

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

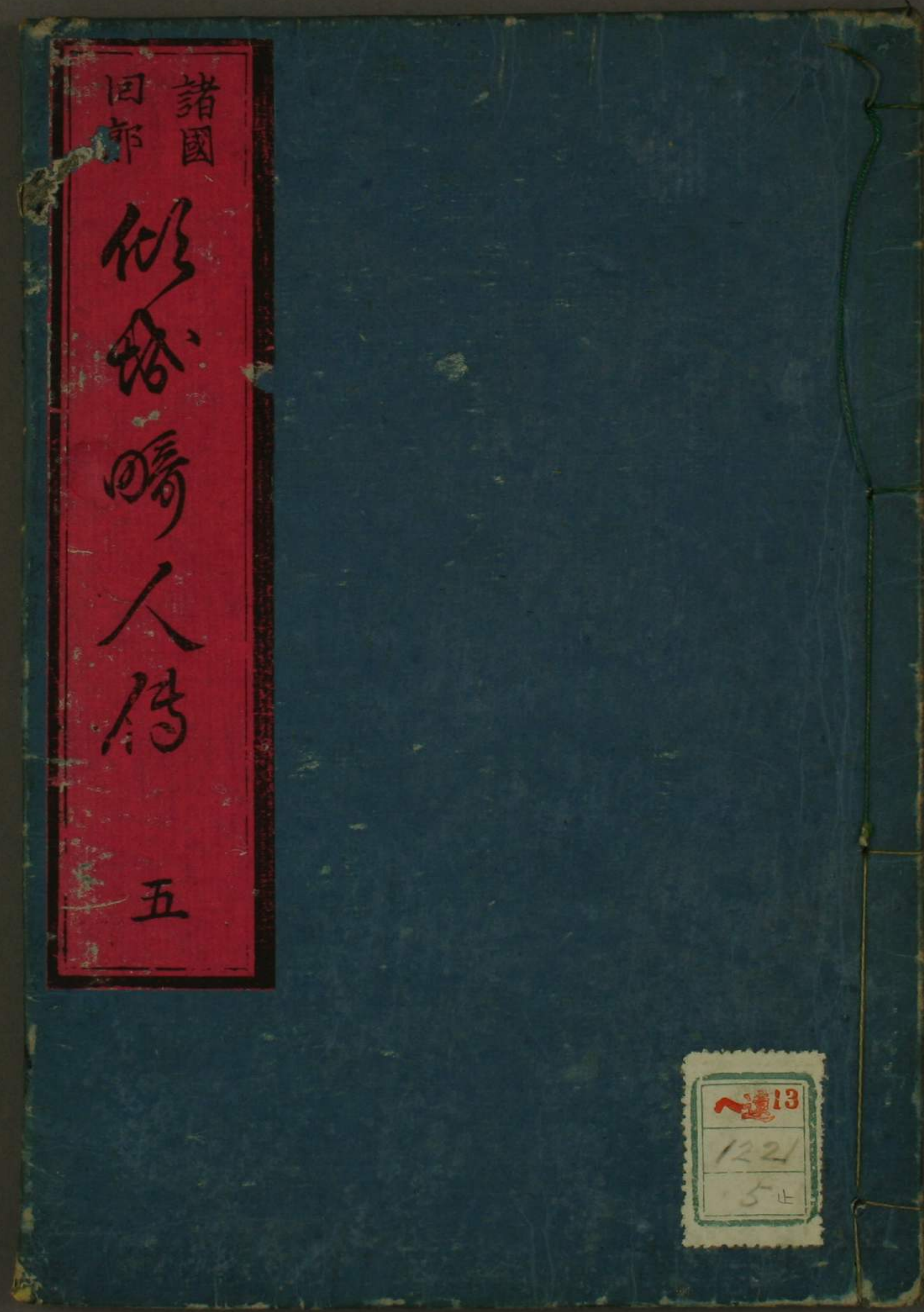
19

B

17

18

19



眞野
藏書

門へ 13
部 1221
卷 5

傾城時人傳卷之五

山東京傳選

新町の初花佛戒を犯て舊身残部

雲小消かしく小むすぶ糸の泡の浮世小めぐる糸糸
こ我をみるまこと有為轉變の形勢をわこちこ
右歌のむもく実もさるるゆぞか 恨の及の深る中
小も身の為小公を仗義小依て沉倫するちると又棄
めくやいつの比ふらまけん新町扇屋小初花といふ
左交ありたるが海の内海屋友次郎なる男これ
小深く剝漆て比翼連理のわくさひちあし初花が客
玉珠屋する八といふ大毒と牛角小競我劣とと世の

條も人の條をも用ひて通ひ借ける程小内外通ひと
ひくおろのけが如く家業を投してておまの事おれと
心城辱し今ハ手銀ものとりすくちくありをれと
まを止るけしおれく只燈火の立消るまで廓不足を
運ぶこそうこそては彼玉珠を平八ハ小濱の米者
人よそ近年高からの手續よく運小糸とて身代給
日の昇る小等しけは長袖よく舞多錢よく買の
ことわり廓中におぬるも尚時無双の大曲と伴が
是諸人の服を教るは活計志をくもそ中く友次良
か及ぶべきおぬるあはれ初花と云次才小流りとぬ本

とあり是も千貳百兩まで廓を出しは世小諸とる
いへるおよびそちなる産家を借て他の人小見せぬ身
とありまむる城友次郎の咄付て口惜くおひなれと
を其金まくるおれ対の交うすき世の中只を多くあり
果する身の上を悔て一回ある心より労病のおもた病
ふとり合せ床小卧て枕えあがらざると初花のこと
のこおひあこがれ命令のちとも是米あはれ世の外
のこおひ出ふ今ちとびの逢うすもやと若き中ふ
祝引よせこ中やうおぬ徳めくこちる利くら者小持せ
やまける使の男玉珠を平八が毒宅小いりて初花

が古々河州古市の端歩よりとづりてとあり
 よしやて必不致をよとく主海りぬ初花は古々より
 の消息をほく安否いごとく疾ひて記さる小婦か
 手後よあやで彼友次郎が方の憂げ一銭をさぐく
 とあつらねるる糸の末よいと恨くる筆のあゆにて
 今ぞ知る侍見し此の衣あくも
 ちとてよあやのほろほろ涙をさぐり

初花こそは秋のそと大さふ強痛氣のおり記さる
 て何とそ友次郎不我墨もた胸中とありしとく
 けきとも且那の免ちさうちハ一寸も亦面へ出る

からうとほ他信む小但せざる方あまは狗を抱てり
 小月日然色しぬやうてもまごころちやうぬべ或時平八
 が操嬢をえん合志くいあやう今又や中でもま記我身
 の上あがら廓小初し流より且那の心情をかむり
 魚とあとの離れど記がぬくおとそ花ふ産し月小
 碎もほ手を持ち一行く相楽しむる身小とりて
 けう人もる記栄花あり志うし方の栄を食負てて我
 理を忘ると義を辨て栄花を記さるといづき
 人さる力の道よそいや且那の志をせぬと為ける
 小平八實尔と志くこころ志記問ごとくあま我小背て



新四



新三

いえよりい我をちりて死あんよと春秋も
 又いふ世に業障ふらぶとれ我理を棄るはまじり
 仍然なり何ゆさやうの伏を尋るを又そ方おろく
 繋ぐる男もあがら新余はの花とありしを在を
 くさひ今文の葉の深るふ我理を立んとするや物
 花こそ我望て涙をそらくとこほし今何をうつみ
 中らん縁め旦那の控置小遠りねども深るなとやん
 浮氣の色小あはる廓小勅てあし時傍の内の子
 郎といふ大盡我ゆゑ徳なる分代を傾け流す
 死力とちりせし一がそれを余はよえあしそ業障ふ

くらまの月より我をふらう恥すふありとらふこと
 燈花の苦患我道きつるこれ偏小旦那の惠ふよるふ
 る世に情懐をみぐくさひく今日を彼友次良
 へ一紙片言の書信させぬつまあはるしりけら
 い程なき病ふちやとてあるよし消息よそいひ
 身ごとくつる世の女命ありせむゆの毎屋し時密
 小首尾をつくるまゝ愛を抜出男のちとをりけりて
 身成原つきれさも成がうべ依病うそ礼公老の他
 をさあしあすう家内を強して旦那のちと相つき
 うん難あく送りかされおろふ田力小連流ちと不我

我働く小籠計あやこり。あまもども尚家小かざり
 多明の旦那あんどたやうの拙さ手術小のりあつて
 又友次郎とあを大切小あむとつとつとも現在公家
 の大身ある旦那を係て彼小あむを棄あんにあつははど
 不義のいつりあつるを係くよれもあつともかく白地小
 中上さうへへ時何りも今までの所情小あゆり
 又操嬢よく肺をあらうをせせ世この心身あつん
 け隠さうく親上とてつとつとあをひき伏し涙
 つこ手小懐中より友次郎の消息をたどり見せ
 けるかあへこれを手あもさうたつ子そのあつん

中でもあつる方ゆへ小あ代を渡さる男を志の小
 へ情のやう上業のを捨て多たつつくも長理小通さ
 身を若めるはが志の神妙あつ小めで今より肺を
 巻くべきる猪手次小あつと二念あつ離縁
 あつる平八が心あつつをせし極の沢知と世の人精
 義志つりける初花はそきより峰の内小つり友二良
 がりやう初さる小あつ家肉うちら撃撃て慈傷の件
 ありしつらいと氣づりしつと換子を同ふ友次郎へ
 病氣の害生もあつ小かまりつては曉往生せし
 ようあへつる初花はそちつら狂女の如くとり乱

傍の人小挨拶もせぬ奥のるへをり初てこそ世に
屏風を押し付け友次多り死骸小まごりつた人目も怪
らぐ。こころちていふ久しく中絶し君が公のうすた
小とあらぬ我もも任せざればありとて一年終りの
約をちせし骨とめても忘るる家平生母方の
みの心小かたてまごりが勝を死ぶご首尾あ
てふよものぬ月日城送りやうく辛うとく
勝ととるこれ疾心小やうく一年終りの愛と互小
物語ゆく末たぶら縁来らせんと安堵して来りし
そのまごりやくもはうちやくあひするの悔こそ

嗟呼こそしも宿縁の志うりむるあまづなればたと
志をゆきて我小先ごちのふとも今こそ途ざら
恨を肩とたまひそ我この悪友の呪小あふこれを
責ひく室とする玉の如し他の人小興あることふあひ
うらくもあらぬと君が為惜むふなるとごり振解
判刀を乞借て誓より勇死骸の枕上小まて初と放ち
泣悲む涙腮を流るごり社を後る小塩ど友次多り親
族もまごりの程の女の方まで狼藉ありと悟りふひ
しが始末をゆきあひまごり小誓あつちりて世小類たれ
程小哀のり初花がらまのそ我に彼悪友ひく縁と棺

中ちゆう小せうあさめて葬送そうそうの式しきをねんごろ小せう堂どうけり初はつ初はつ
花はなへ交まじり命いのちが親類しんれい小せう勝しょうを告つてたゞも改あらたむる位くらい者もの
ある遠とほ里さと小せう那なの伯母おばがりくと人ひとが成なれさせ云いくの中なかつぎ
小せう徳とくて援助えんごを乞こひ程ほどちう紀あき尾でう寺でう小せういりて醫いとある
一いっ法はう号ごう城じやう知ち心しんと改あらため交まじり二に島しまが喜き提だいの乃の二に六ろく時じ中ちゆうの
勅ごん行ぎやうおこさるるちう香かう花けのつぎ小せう知ち心しんをゆぐねおこさるる
さすりていすそわりのる却かえ後ご小せう溪けいの玉たま塔たつ屋や平へい八はち
初はつ花はなを離はなれさすよりいふある極ごく高たかひの手て合あひ
くさる小せう買かい下か直ちく小せう喜きの逆さかさやごとのとまはれ
利用りよういさる小せうあさむさく換か毛もういや塔たつをりけき小せう買かい百ひやく費ひ

目めをき来たさる身み代だいも較あの雲うと消きる小せうひくく僅わずか
一いっ年ねんあすりのうち小せう家け成せい悉しつく分ぶん家け志しく竟つひる天てん
満まん砂さ原げんの裏うら店てんへ引ひとり又また婦ふ困こん窮きゆうの位くらい居いその艱げん
難なんありひやるへ一いっ玄げん冬とうの意いたゆ之のも床とこ小せう志しくもの
ちうん是こゝは坐ま美みの子こを渡わた風ふう肌みを刺さがぬく浪なみ紙し一いっ言げんを小せう
小せう中ちゆうとひく灯とう火かも照てらぬ光ひかりは下か外がいの米こめ買かい小せう屋やた
工く面めん小せう狗くわを痛いため千せん万まん石せき賣う買かいせし者もの人ひとも今いまいふ
の奴やつとさるるも志しくも安やすさむいあて又また奴やつも
小せう泣なくくけりちう人ひとの情なさけも世よ小せうあし時ときとつとね
よは遠とほぞ憑たも心しん一いっ人ひとと見み入いつ一家いっか親しん類れいすう初はつあり

くごうてふん向もやうに況や他人ふおのそや唯利
 残ひく交りをもあ人懐こそうこそそと世のつき
 あさ我帳も我何る況しもあ初つうの時あのを
 りめちたうふお兼傘うちうもむけ兼妙あるそ急
 志く平八が名をさるひは内戸ちと者あひく
 入来るをえんまば黒縮緬の花の帽子を被き藤色
 ち里めん小綸子の白裏つけく飛金の入し紺莫臥
 尔の帯茂前小結び天穉毛の黒た平絆を衣の服
 小志めく淺草縮緬の二布をもの志するは又ある
 中じれあ比丘尼平八徒そと説てよく見とむむい

給もるれを女の初花あり平八驚おくむう小誓う
 一窮迫の存件をさるが小死うきくそくも迹隠さ
 此程の隈もあまきまぐら面目もあれ対面とさ一衛
 向く伺え出ば初花に板る小腰うちうけ一別い来れ
 曇るのを本さうちもそや洞へ涌かぬ時節とくやあ
 ぐらさり迎は清いそくたかごちや我身もあし幸
 旦那小臍をいりてれく折角侍の内小初よりしが
 空を子ことそれる位までな生ふ一言の初からあふさ
 うまのれやうく死息えらばうりの本志あをさあ我
 宿世つてあれ故あるべし煩悩歸菩提とあひ何れ



九



九

らめせぬくへ七徳ありとも昂ひく髪をあらうく
 かる黒漆の笄とたるを位若き里小町の屋敷まで香
 花の供物をあし一友二命との菩提を心の儀ふいと
 るむもそよりと我もくも且那の佛情をのむりたるゆ
 ちより出方の厚恩のそまのくく刃の位若ふまで毎日毎
 小佛事の際ま街及よまへへ通ふ采方の脚力を結
 うけ佛方の安否をを危や角と影あがらるるゆゆに
 とそ後去年の秋より刃代不ぬえふありたるとの
 風吹まありしうがまやけ流りその砂原へ逼塞し一のみ空
 うけぬらういふくむるるにも遠く来しうゆふく小

やまするあち記あまきけに位居かをうりのゆきとはまま
 さりしふとあしうこの始終をくりうへ一歎けし小
 平八も染が涼切ある物語をきて位小涙をこやし
 傑小まうりうが記もの人の切糸とあゝの流ありあふ
 運よまきく一旦かく雲あされとを又ふりく歎くべき系
 あらに執く世の中れる何事も天命小罪さるゆあり
 今下の程小あることと束をまきく自然小みり今下の程
 小ちさるゆ精神を芳ししても玉とびとまはたさ方伯
 手我拱の笛をこもつとも一とひ天命改らんならまら
 一個の貧窮人とちありちえさうりとして掛子一盆と貧貨

小代より程の天福へ来る中、けきと仏神とふんすそ
 めんまゐるに再び世にいつる節もあつて、そなたの
 成りたる仏門に、情人の菩提を吊ふのころ、
 慈悲をさしひくひく、糸もろく家成り
 なる前より、其の夫ある物語を、
 不通ふもひきり、今又結を
 ちくちくありと、おむすいふ家、
 後依ちて、とまらぬ、
 と申す、この人、口説くは、
 ちけき、板田の橋の、
 破戒の、

昨日より戒律の別業へ、糸を
 く、身の為、ちりりの浮氣、
 救ひ、せん、
 二百両包を、
 一、
 けき、
 及む、
 糸、
 のち、
 糸、
 のち、

と我志う侍小玉珠屋平八は彼貳百兩を居性とあり
 以前の如く米高ひをさうめけり亦天初花が誠心を
 感念あけん事小利倍を得る不目小敷万石の
 別代とさうしうは再び小濱小居を救してむうし小
 中なる家の毎々昌月と目小りりて停る亦を志るは
 小刃代不易の富を目出さく子孫小傳へ今小いさるやそ
 初花が親りり河州古市の何系へ年々金子貳百兩
 つ送りさるとかえ語はさるり

評さるく孝悌忠信仁義廉恥の八つを志さる
 る忘八家小つとむる持女さるれども節をかり身

残さる者往古よりさるさるは是はさるらあり
 こゆを枕の内小誠を定めし礼せる心と身小思
 ひ懸清る故あり既小初花煙花の苦患を乃らさ
 る何小不足を死境界よあつひの妻女たりせは
 房燕風さるさる種要小日城さるらあり初花が
 妾宅を厭さるるを死さるいゆめく平八を嫌ふあり
 を唯交友席と約せし善言の仇小ありなる
 残款ありちりちりさるさる平八も渠ら富貴を棄さる
 貧家小ゆく節義を感し脱酒と賤をやり
 する意向今時の悪精を大辱さるら大金出さる

手小入と女滄埃の不埒もても鹵莽小階へも俗
 中一扱と我初花の出先離別の厚身心を忘る時
 ちく之世諸佛の眞罰も怨しれ不破戒の罪を
 犯志く平八分奇窟を救ひ玉城屋の家と身與
 ちくしめ堯小義城西端ふとくさば名と人多く
 ちくし摺小終をとくちくそく小速く義我を換
 ちくし人の常ある小至哉初花が品行世不類ひ
 ちくし心操ふと我

大尾

和漢
西洋

書籍發賣所

大阪府下心齋橋通
 南久宝寺町南へ東側
 小島伊兵衛

